

<Vol, page No.>

41,1-5

<section>

Formation and Sources I

<English title>

Evidence that diffuse domestic burning is an important source of PCDD/Fs and co-PCBs

<Japanese title>

家庭内での燃焼の拡散がPCDD/Fsとco-PCBsの重大な源である証拠

<Authors>

Rainer Lohmann and Kevin C. Jones

<Keywords>

domestic burning, PCDD/Fs, co-PCBs, meteorological parameters

<Japanese keywords>

家庭内の燃焼, PCDD/Fs, co-PCBs, 気象項目の値

<Captions>

表1 4地点におけるPCDD/FとPCBの濃度の最小値, 最大値および平均値

図1 4地点における Σ P4-8CDD/Fs(pg/m³)と Σ TEQの変化

図2 4地点における Σ PCBs(pg/m³)と平均気温の変化

表2 最低気温(Tmin), 風速(WS), 風向(WD)と選んだPCBs, PCDD/Fsの間の相関係数(特に重要なのは * P 0.05, ** P 0.01)

<Summary>

大気中のPCDD/Fsの発生源としての家庭内の燃焼の果たす役割は、国全体としては小さい。一方、田園地帯において冬場PCDD/Fs濃度が増すのは家庭内の燃焼による。そこで、1998年の冬、北イングランドの4地点で継続的なサンプリングを行った。

家庭内の燃焼は季節に依存した発生源である。PCDD/Fs濃度は全地点で気温の低いときに、PCB濃度は都会で気温の高いときに上がった。PCDD/FsとPCBsは異なる発生源を持つことが示唆された。PCDD/FsとCo-planar PCBsは、気温および風速の二つの気象要素と強い相関を持つ。

<Translator>

竹井秀夫

<end>